

日交研シリーズ A-646  
平成 26 年度研究プロジェクト  
「自動車保険研究プロジェクト」  
刊行：2016 年 1 月

テレマティクス自動車保険の現状課題と将来展望  
Present Problems and Future Perspectives of Telematics Automobile Insurance

主査：堀田 一吉（慶應義塾大学教授）

Kazuyoshi Hotta

要 旨

テレマティクス (Telematics) とは、通信 (Telecommunication) と情報科学 (Informatics) を組み合わせた造語であり、自動車などの移動体に通信システムを組み合わせて情報サービスを提供する新しい技術である。近年、このテレマティクス技術を応用して台頭を見せているのが、テレマティクス自動車保険である。これには、走行距離に応じて保険業が変動する「走行距離連動型保険料方式 (PAYD : Pay As You Drive)」と、走行距離だけでなく速度や急加速、ブレーキ回数など運転者の運転行動を分析して保険料に反映する「運転行動連動型保険料方式 (PHYD : Pay How You Drive) の 2 種類がある。

近年特に注目されているのは、PHYD 型のテレマティクス自動車保険である。現在、テレマティクス機器が次々と開発されて、集積されたデータを解析して、安全性やリスクに関する評価手法の開発が進められている。

今後、テレマティクス自動車保険を本格導入するためには、運営コストなどの実務上の問題だけでなく、プライバシー問題など法律上の整備、さらには契約者 (国民) の合意を得ながら進めなければ、大きな摩擦の材料になりかねない。

ビッグデータの利活用の進展により、契約者に対するサービス拡充に向けた開発競争が激化し、また、他の産業との連携を含めた新たなビジネスモデルが生み出されることが期待されるが、そこでの功罪についても慎重に検討が図られる必要がある。

キーワード：テレマティクス自動車保険、ビッグデータ、PHYD 型方式

Keywords : Telematics Automobile Insurance, Big Data, PHYD (Pay How You Drive)